

## 2

YAESJ280T-A1形用

形名：PAC-KB43DM

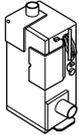
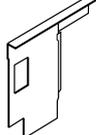
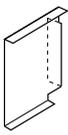
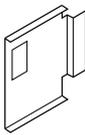
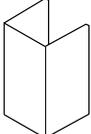
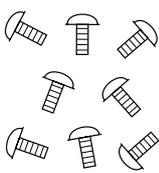
## 1. 適用機種

形名	適用機種
PAC-KB43DM	YAESJ280T-A1

## 2. 付属部品

**ご注意**

- ・ドレンアップメカ本体①と化粧カバー⑦はネジ止めして梱包されています。
- ・取付作業を行なう前にネジを取外してください。

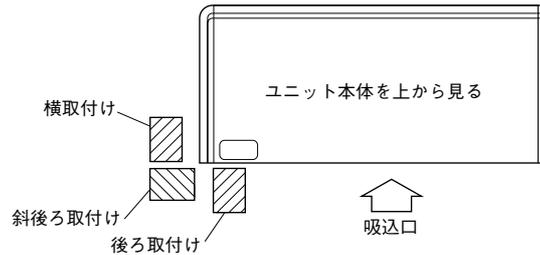
①ドレンアップメカ本体 1個 	②トリツケイタ 1 1個 	③トリツケイタ 2 1個 	④トリツケイタ 3 1個 
⑤ホキョウ 1 1個 	⑥ホキョウ 2 1個 	⑦化粧カバー 1個 	⑧ドレンホース 1 長さ=340mm 1個 
⑨ドレンホース 2 長さ=375mm 1個 	⑩ツギテ 1個 	⑪ハイセンクミタテ 1個 	⑫バンタイ 2個 
⑬シールテープ 2個 	⑭ホースバンド 3個 	⑮PTTネジ4×10 4個 	⑯Pトラスネジ4×12 4個 
⑰ザツキタッピンネジ5×10 8個 			

## 3. 取付要領

この別売部品は、取付位置を3箇所から選択できます。(下図)

**ご注意**

- ・作業を行なう前に必ず主電源のOFFを確認してください。
- ・作業は必ず軍手・腕指しなど保護具をつけて行ってください。



## (1) ドレンアップメカの取付

下表の作業手順に従って取付けてください。

取付位置によって手順が異なりますのでご注意ください。

(①、②、③、一の順番で作業してください)

ドレンアップメカの取付位置及び手順			作業内容	図解
横取付け	斜後ろ取付け	後ろ取付け		
①	①	①	右側のサイドパネルを取外してください。 (ネジ1本)	
②	②		ホキョウ1⑤を本体後ろ側に取付けてください。	図1
③	③		トリツケイタ1②を本体後ろ側に取付けてください。	図2
④			ドレンアップメカ本体①にトリツケイタ2③を取付けてください。	図3
⑤			前記項目で組立てたドレンアップメカを、トリツケイタ1②に取付けてください。	図4
	④		ドレンアップメカ本体①を、トリツケイタ1②に取付けてください。	図5
		②	ドレンアップメカ本体①にトリツケイタ3④を取付けてください。	図6
		③	前記項目で組立てたドレンアップメカを、本体横側に取付けてください。	図7
		④	ホキョウ2⑥を、本体横側に取付けてください。	図7

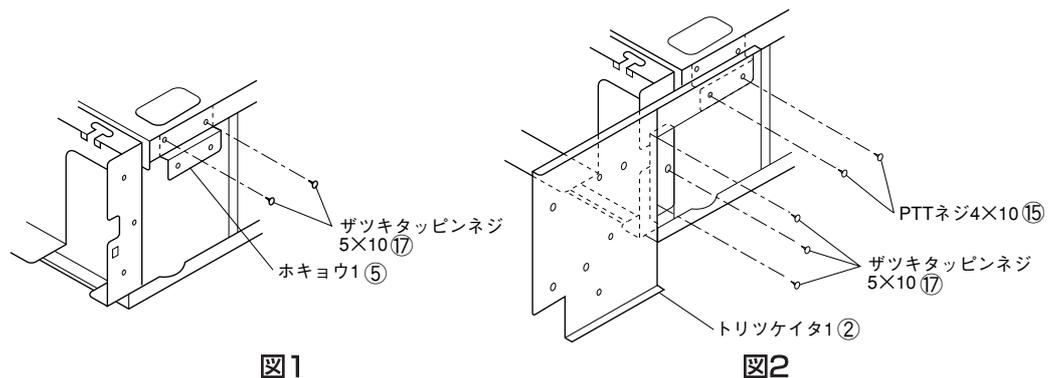


図1

図2

# 7

# オプション品

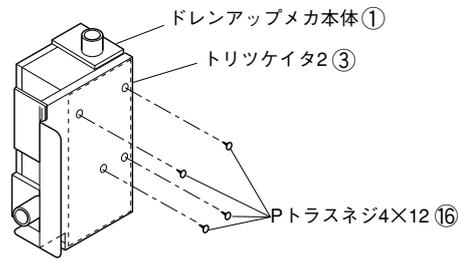


図3

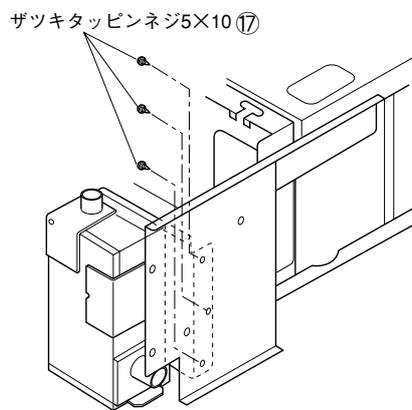


図4

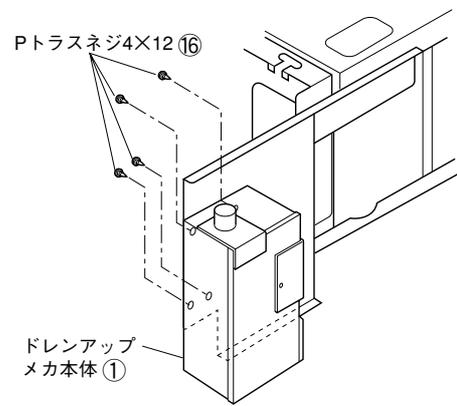


図5

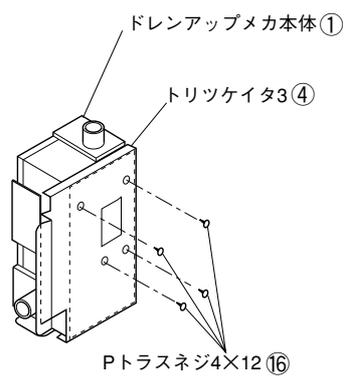


図6

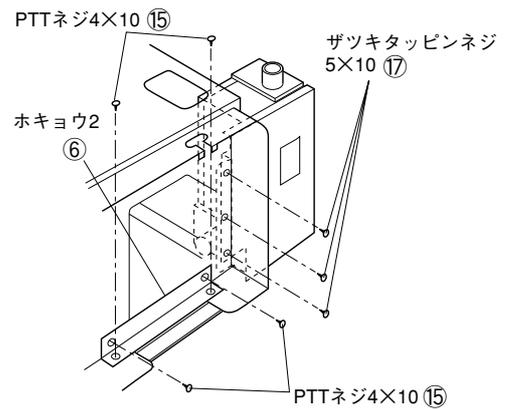


図7

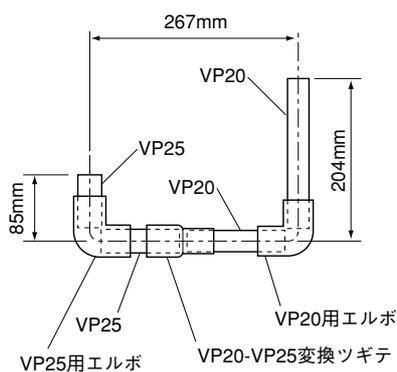
## (2) ドレンホースの取付

## 横取付の場合

- 1) 図8に示す形状の配管を用意してください。(現地手配品)
- 2) 本体ドレン管に本体付属のビニルチューブを付属のホースバンドで固定してください。—図9
- 3) ドレンアップメカ本体①のドレン給水口にツギテ⑩を取付け、1)で用意したドレン管を取付けてください。—図9

## ご注意

- ・ 接続口(4箇所)は、全周を塩ビ系接着材にて接着し、確実に水漏れのないよう接続してください。
- ・ 接続口は、ホースバンド⑭にて固定(4箇所)してください。(ホースバンド⑭のネジ部は、上にして固定してください。)
- ・ 以上完了後、ドレン配管部に断熱パイプを巻き充分に断熱処理をしてください。



(接続口は、すべて全周を塩ビ系接着材にて接着し、確実に水漏れのないよう接続してください。)

図8

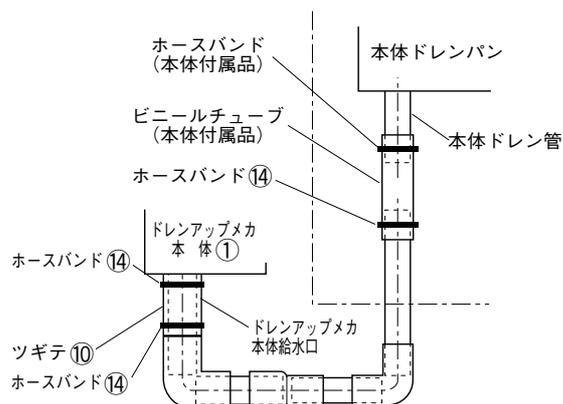


図9

## 斜後ろ取付の場合

- 1) 本体ドレン管と、ドレンアップメカ本体①のドレン給水口をドレンホース2⑨にて接続してください。—図10

## ご注意

- ・接続口(2箇所)は、全周を塩ビ系接着材にて接着し、確実に水漏れのないよう接続してください。
- ・接続口は、ホースバンド⑭にて固定(2箇所)してください。(ホースバンド⑭のネジ部は、上にして固定してください。)
- ・以上完了後、ドレン配管部に断熱パイプを巻き十分に断熱処理をしてください。

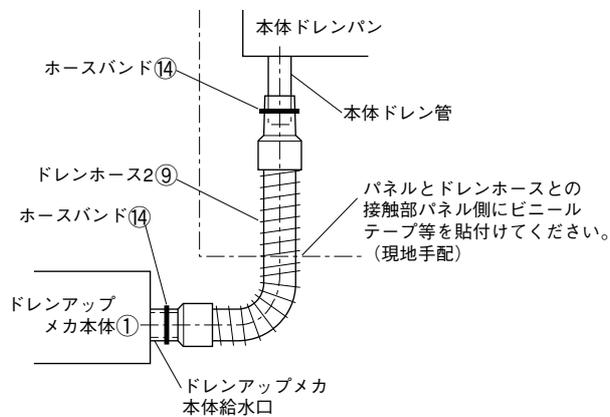


図10

## 後ろ取付の場合

- 1) 本体ドレン管と、ドレンアップメカ本体①のドレン給水口をドレンホース1⑧にて接続してください。—図11

## ご注意

- ・接続口(2箇所)は、全周を塩ビ系接着材にて接着し、確実に水漏れのないよう接続してください。
- ・接続口は、ホースバンド⑭にて固定(2箇所)してください。(ホースバンド⑭のネジ部は、上にして固定してください。)
- ・以上完了後、ドレン配管部に断熱パイプを巻き十分に断熱処理をしてください。

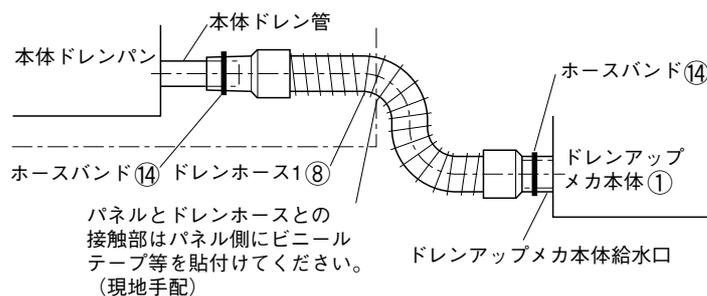
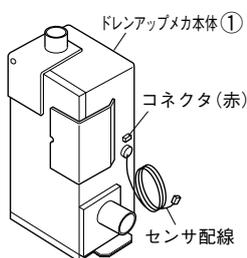


図11

## 4. 電気配線

- 1) 制御箱カバーを取外してください。(ネジ2本)
- 2) ドレンアップメカ本体①のコネクタ(赤)にハイセンクミタテ⑪のコネクタ(赤)を差し込んでください。—図12
- 3) ハイセンクミタテ⑪及びセンサ配線の経路は、本体後ろの開口部から制御箱へとしまわしてください。制御箱内の配線経路は図13を参照してください。
- 4) ハイセンクミタテ⑪のコネクタ(青)を制御基板上のコネクタ(CNP)へ、センサ配線のコネクタ(白)を制御基板上のコネクタ(CN31)へ、それぞれ差し込んでください。—図13



(最初から制御基板上のコネクタ(CN31)に差し込んでいるコネクタを抜き取ってセンサ配線のコネクタを差し込んでください。)

図12

- 5) 制御箱カバーの配線穴からハイセンクミタテ⑪及びセンサ配線を貫通させた後、制御箱カバーを元どおり取付けてください。—図13

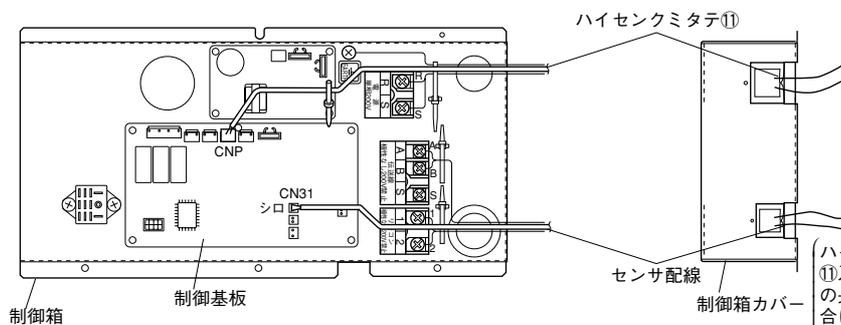


図13

(ハイセンクミタテ⑪及びセンサ配線の長さが余った場合はバンタイ⑫にて適宜結束してください。)

## 5. ドレン配管

- 1) ドレンアップメカ本体①の排水口と、硬質塩ビパイプVP20(現地手配)を塩ビ系接着材にて接着し、確実に水漏れのないよう接続してください。—図14
- 2) 接続部はシールテープ⑬を巻き付けてください。—図14

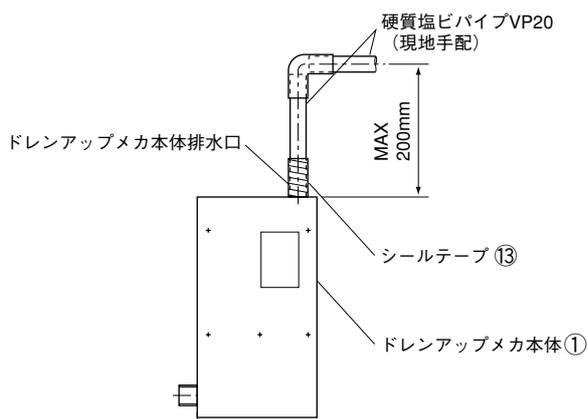
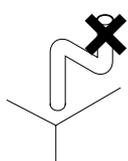


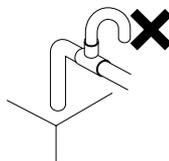
図14

**ご注意**

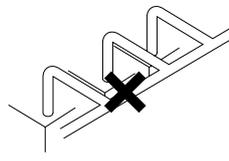
- ・ 立ち上げ寸法は、200mm以上にならないように施工してください。200mm以上になると、運転停止時におけるドレン水の逆流量が多くなり、オーバーフローの原因になることがあります。
- ・ 以上完了後、ドレン配管部に断熱パイプを巻き充分に断熱処理をしてください。
- ・ ドレン配管の施工が下図のようにならないように注意してください。水漏れ及び露たれの原因になることがあります。
- ・ ドレン配管の横引きは必ず100分の1以上の勾配をとってください。



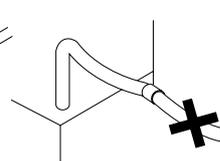
ドレンパイプの再立上げ



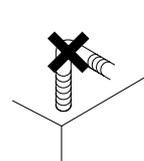
ドレン配管の通気管



ドレンパイプの横引き上での合流



ドレン配管のトラップ



断熱不良

## 6. 試運転

**ご注意**

・ 本体の電気工事、配管工事が完了してから行ってください。

- 1) 室内ユニット本体のドレンパンに水を入れてください。
- 2) 室内ユニット本体の電源を入れてドレンポンプが運転し、ドレンアップメカ本体①のドレンパン内の水が排水されていることを確認してください。
- 3) 確認後、ドレンアップメカ本体①に化粧カバー⑦を取付けてください。  
— 図15
- 4) 右側のサイドパネルを元どおり取付けてください。(ネジ1本)

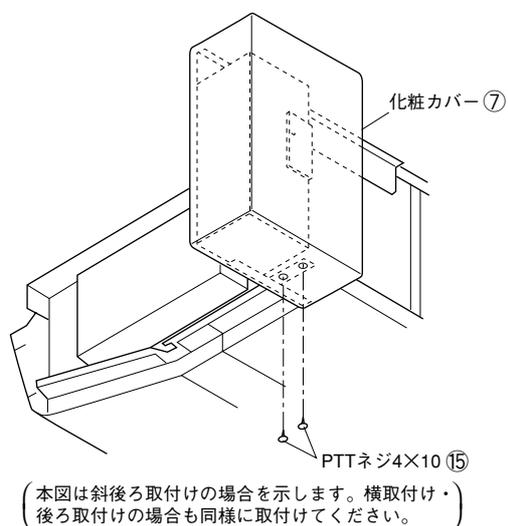


図15